

事業成果報告書

1. 個人または団体名（団体名の場合は代表者名も記入）
田崎 真奈美
2. 研究または活動のテーマ（課題名）
在日米軍再編見直しによるアジア太平洋地域における軍事主義への抵抗： 在沖米兵による強姦事件と抵抗運動を事例に
3. 助成額
390000円
4. 実施期間
2013年1月27日～2013年2月3日
5. 実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 2013年1月27日-31日 Australian National University で開催された Japanese Studies Graduate Summer School (JSGSS)に参加及び研究発表。タイトルは“<i>Girl and Politics: Considering Rape Cases Caused by US Soldiers in Okinawa.</i>” (Presentation Session 7:Power and Politics in Okinawa) ■ 2013年2月1日 Communist Party of Australia の党員であり、Australian Anti-Bases Campaign Coalition に所属している Denis Doherty 氏へインタビュー。 ■ 2013年2月2日 BaseWatch Darwin のメンバーである Justin Tutty 氏へインタビュー。 ■ 2013年2月3日 ダーウィンの歩兵隊基地及び訓練場を視察。その後、ダーウィンにおいて反基地運動や環境保護活動を行っている市民たちと会議を行う。（計画当初はダーウィンにおける NSW Rape Crisis Centre の視察も考えていたが、日程が合わずそれは行うことができなかった。代わりに、同会議に出席していたメンバーからセンターの様子などを話してもらうことができた。） ■ 2013年2月15日 高江においてのオーストラリアーダーウィン訪問の報告
6. 事業成果と自己評価
<p>Australian National University において開催された Japanese Studies Graduate Summer School (JSGSS)では Presentation Session 7:Power and Politics in Okinawa というパネルのなかで “<i>Girl and Politics: Considering Rape Cases Caused by US Soldiers in Okinawa.</i>” という題で研究発表を行った。まず、日本文化研究という枠組みの中に同パネルが設置されたことはオーストラリアという地点から「日本」という国家及びそれに関するアカデミックな領域を捉え返すことそのものであったことを記しておきたい。私の発表内容は、性暴力の観点から戦後沖縄における反基地運動を分析することに主眼を置いたものであり、具体的には戦後沖縄で発生した米兵による強姦事件とそれらを巡る沖縄民衆の反応を新聞資料でたどるとともに、その反応の強弱の原因を分析し批評するというものだった。また、その際には反軍事主義への抵抗運動を担う団体やそれらの取り組みを紹介し、パネルチェアについていただいたギャバン・マコーマック氏を始め、テッサ・モリス・スズキ氏やその他の学生たちからも有益なコメントを頂くことができた。</p> <p>次に訪れたダーウィンでは、軍事基地を視察しさらに地域で運動/活動する団体や個人と互いの状況を報告しあう機会を得ることができた。ダーウィンにはすでに豪軍基地が存在しているが、2012年に日米両政府による在日米軍の再編計画に修正が加えられ新たに在沖海兵隊の移駐が決定した。それは、米軍による軍事主義がアジア太平洋地域における実</p>

質的な強化と拡大を意味する。私が訪れた当初、ダーウィンでは反基地運動や環境問題に取り組むグループが米軍再編と在沖海兵隊の移駐については具体的に行動を起こすまでには至っていなかった。しかし、豪軍基地が地域に与える影響-環境問題、兵士たちによる事件/事故、政治経済、軍事主義の横行、首都や大規模都市を中心とする「国家」からのダーウィンという一地域の切り捨て等-については、BaseWatch Darwin や The Independent and Peaceful Australia Network (IPAN)、StandFast, Greens などのグループや市民たちが長年の間取り組んで来た課題である。ダーウィンで行ったミーティングでは、彼/彼女らと同じように沖縄でも戦後、反基地運動団体や環境保護活動団体そして多くの市民たちが反軍事主義の運動を展開してきたことに加え、そこに性暴力 (Sexual assault) の問題も根深く関わっていることを報告した。だが、多くの事例がありながらも、沖縄において性暴力への抵抗運動は反基地運動のひとつとして見なされてはおらず (抗議の重要要件には取り上げられることがなく) 被害者のほとんどがその存在を無化されてきた。ダーウィンでも兵士による性暴力事件はこれまでに起こっているものの「個人的な問題」として矮小化され、軍事主義への抵抗の一端を担うものとして見なされてはいない。このミーティングでは、軍事基地を押しつけられている背景や状況に加え、それを取り巻く問題においてもダーウィンと沖縄は非常に近似していること、さらに性暴力の問題が反軍事主義運動において非常に重要な位置を占めていることを確認しあうことが出来た。同時に、沖縄とダーウィン-オーストラリア間における運動ネットワークを創設することの重要性を深く実感するに至った。

今回の調査研究及び活動の全体を通して、まず沖縄の反基地運動及び軍事主義への抵抗をジェンダー正義の枠組みで捉えてきた運動をオーストラリアで報告することが出来たことは大きな成果の一つである。それによって、アクティビズムと研究の両方を通して沖縄とオーストラリアの反軍事主義運動を接続することが可能となった。またそれは、沖縄で展開してきた運動を一地域のものだけに固定するのではなく、アジア太平洋地域に広がり連帯しあうネットワークという領域から捉え返すことの可能性と有効性を大いに示唆するものである。オーストラリアでの調査後体調が伴わず、日本語圏においてオーストラリアでの運動状況を広く紹介/報告するにはまだ十分至っていないが、これまでに沖縄の高江や辺野古といった運動現場でオーストラリアの運動の展開を報告することが出来ている。また、その後オーストラリアの新聞 Green Left Weekly のインタビューに応えたり、BaseWatch や IPAN といった運動団体から高江や辺野古の運動へメッセージが寄せられるなど、相互の結束はこれまで以上に強まっていると言える。さらに、このような運動ネットワークをより広範により密に形成することによって、これまでに米国と米軍の駐留する国家/地域間でしか捉えられてこなかった地位協定の問題等あらゆる状況を比較検討することや互いの運動スタイルを学びあうことが可能になる。それは、国家やこれまでのスタイルの枠にとらわれない豊かな抵抗を編む重要な契機であり、今回の調査研究と今後それをより洗練して相互の地域を紹介しあうことでその一端を担うことが出来ると考えている。

以上のことは、運動をジェンダー的視点から分析することによって、今後の沖縄と海外におけるアクティビズム研究及び、フェミニズムやジェンダー・スタディーズをより進める活動のひとつと成り得たと考えている。

これらの調査研究及び活動は貴基金の助成なくしては実現出来なかったものであり、心から深く感謝申し上げます。